

Cisco Process Orchestrator:Java ヒープ サイズの増加

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[問題](#)

[解決方法](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco Process Orchestrator(CPO)サーバ設定ファイルのJavaヒープサイズを増やす方法について説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに特有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、CPO 3.0以降に基づくものです

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

問題

Java関連アプリケーションの接続の問題、それらのアプリケーションの一般的な障害、またはJavaコンポーネントが原因でシステムがクラッシュした場合、ユーザはJavaヒープサイズを増やす必要があります。

解決方法

Javaヒープサイズは、CPOサーバ設定ファイルで増やす必要があります。

次のステップを実行します。

1. CPOインストールディレクトリ(例 : C:\Program Files\Cisco\Process Orchestrator)に移動します。
2. CPOサービスを停止します。
3. Tidal.Automation.Server.Exe.Configファイルを編集します。
4. <Tidal.Scheduler.Common.Properties.Settings>ま。
5. <setting name="AdapterHostJVMOptions" serializeAs="String">ま。存在しない場合は、タグを作成し、</setting>タグを付けてタグます。
6. AdapterHostタグで、値を<value>-Xms16m -Xmx512m</value>。注 : より大きなシステムを持ち、より大きなヒープが必要な場₂-Xmx1024mにする必要があるかもしれません。
7. ログの合計エントリは次のように表示されます。

```
<setting name="AdapterHostJVMOptions" serializeAs="String"> <value>-Xms16m  
-Xmx512m</value> </setting>
```
8. 設定ファイルを保存します。
9. CPOサービスを再起動します。